

1

物語

氏 名

得 点

100

1 次の(1)～(7)の――線部のカタカナを、漢字に直して書きなさい。

(各5点×7)

(1) 牧場にヨる。

(2) かれはゼンブをりかいしている。

(3) ヒツシに走った。

(4) コウフクな人生をおくる。

(5) 問題をトく。

(6) 動物をケンキュウする。

(7) 君のことがシンパイだ。

2 次の(1)～(3)の――線部のことばの意味としてふさわしいものを、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

(各5点×3)

(1) やってみなければ気がすまない。

ア 満足して気持ちがおさまらない。

イ やろうという気がおこらない。

ウ まったく気にならない。

☐

(2) ゆく末がそろそろしい。

ア なんとなく不安でそろそろしい。

イ おそれるほどではない。

ウ そんなにはおそろしくない。

☐

(3) 目の前の光景に息をのむ。

ア おさえていた息を大きくはく。

イ はげしい息づかいをする。

ウ おどろいて息をとめる。

☐

③ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

いつでしたか、①山で道にまよったときの話です。ぼくは、自分の山小屋にもどるところでした。歩きなれた山道を、鉄砲をかついで、ぼんやり歩いていました。そう、あのときは、まったくぼんやりしていたのです。むかし、大すきだった女の子のことなんかを、とりとめなく考えながら。

5

道をひとつまがったとき、ふと、空がとてもまぶしいと思いました。まるで、みがきあげられた青いガラスのように…すると、地面も、なんだから、うつすらと青いのでした。

10

「あれ？」

②「瞬、ぼくは、立ちすくみました。まばたきを、二つばかりしました。ああ、そこは、いつもの見なれた杉林ではなく、ひろびろとした野原なのでした。それも、一面、青いききょうの花畑なのでした。

15

ぼくは、息をのみました。いったい、自分はどこをどうまちがえて、いきなりこんな場所にくわしたのでしょうか。だいたい、こんな花畑が、この山には、あったのでしょうか。

20

③「すぐ、ひきかえすんだ。」

ぼくは、自分に命令しました。そのけしきは、あんまり美しすぎました。なんだから、そらおそろしいほどに。

25

けれど、そこには、いい風がふいていて、ききょうの花畑は、どこまでもどこまでもつづいていました。このままひきかえすなんて、なんだから、もったいなさすぎます。

④「ほんのちよつと休んでいこう。」

ぼくは、そこにこしをおろして、あせをふきました。

30

と、そのとき、ぼくの目のまえを、チラリと、白いものが走ったのです。ぼくは、がばつと立ちあがりました。ききょうの花が、ぎざーっと一列にゆれて、その白い生きものは、ボールがころげるように走っていききました。

35

〈安房直子「きつねの窓」より〉

(1) — 線①「山で道にまよった」とありますが、この理由を次のように説明するとき、に入ることを文章中から四字で書きぬいて答えなさい。(10点)

〈むかし大すきだった女の子のことなどをとりとめもなく考えながら、していたから。〉

(2) — 線②「一瞬、ぼくは、立ちすくみました」とありますが、そのとき「ぼく」は何を見ましたか。次の文のに入ることを、文章から六字で書きぬいて答えなさい。(10点)

〈野原にひろがるの花畑。〉

(3) — 線③「すぐ、ひきかえすんだ」とありますが、「ぼく」がこのように思った理由を書いて答えなさい。(10点)

(4) — 線④「ほんのちよつと休んでいこう」と、考えが変わった理由として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。(10点)

ア 花畑がどこまで続いているか調べたいから。
イ ふしぎなことばかりで体がこわばったから。
ウ つかれて一步も動けなくなったから。
エ 花畑が美しくて立ち去るのがおしいから。

(5) 文章の内容と合っているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(10点)

ア「ぼく」はこわくて立ち上がれなかった。
イ「ぼく」の目の前を白い生きものが走った。
ウ 青いききょうが白くなった。
エ ききょうの花がボールになった。

2

物語

氏 名

得 点

100

① 次の(1)～(7)の——線部のカタカナを、漢字に直して書きなさい。

(各5点×7)

(1) ボールをナげる。

(2) 息がクルしい。

(3) オオカミのチをひく犬。

(4) 何がおこったのかわからなかった。

(5) アタマがずきずきいたむ。

(6) おかしな力オつきをする。

(7) ヒヨウバンのよい作品。

② 次の(1)～(3)のことばの使い方としてふさわしい文を、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

(各5点×3)

(1) 「いいわけ」

ア かれの作品のいいわけに感心した。

イ いくらいいいわけをしてもむだだよ。

ウ オオカミのいいわけになやまされる。

(2) 「にえくりかえる」

ア 空がにえくりかえると大雨になる。

イ 体そうでにえくりかえる練習をした。

ウ 腹がにえくりかえるほどおこった。

(3) 「しかたなく」

ア ぼくはしかたなくお使いにでかけた。

イ 大好きなテレビをしかたなく見ていた。

ウ 教室に花がしかたなく置かれていた。

③ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① ジジの悲鳴がひびきます。キキはむちゅうでほうきの柄をつかみなおそうとしました。でも、ときません。ほうきはまっさかさまに地面にぶかっています。

「こっち、こっち、枝をつかんで」

キキのスカートにぶらさがっているジジがさげました。キキは手をむちやくちやにのばして、さわった枝にしがみつきました。枝はキキがぶらさがあると、サーカスのブランコのようにゆれだしました。

「あつ、やった、やったーっ」

上から声がつてきました。見あげると、白いパジャマを着た小さな男の子が、同じように枝の上でゆれながらのぞきこんでいます。

「つかまえたようー、おねえちゃん」

男の子はまた大きな声でさげびました。下のほうでばーつとあかりがひろがり、この木によりかかるようにたっている小さな家の扉があいて、ひとりの女の子がとび出してきました。

② また、そんなこといって、いいかげんになさい」

③ 「大きなこうもりと、小さなこうもり、つかまえたんだよう、ほら」

こうもり？ キキがふしぎに思って、あちこち見まわすと、ちょうど上をむいていた女の子と目があいました。女の子はぎくつと体をこわばらせました。年ごろはキキと同じぐらいでしょうか。

※

キキは下をのぞいて、しかたなくいいました。「木にぶらさがってはいるけど、あたし、こうもりじゃないわよ」

女の子はわかっているというようにうなずきました。

「うそだーい。こうもりだーい。こうもりがばけたんだあー。だって、まっくろじゃないか」

男の子は木をゆすっていいかえしました。

〈角野栄子「魔女の宅急便その2」より〉

(1) — 線①「ジジの悲鳴がひびきます」とありますが、ジジはなぜ悲鳴をあげているのですか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。(10点)

ア キキのスカートを放してしまったから。

イ 地面に落ちてしまいそうだから。

ウ ジジの手からほうきがはなれたから。

エ ほうきの柄が折れてしまったから。

(2) — 線②「また、いいかげんにしなさい」とありますが、ここには女の子のどんな気持ち表れていますか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。(10点)

ア 大声を出すとみんなにめいわくだよ。

イ 木の上に登るのはあぶないのに…。

ウ 何をつかまえたのか早く見てみたい。

エ いつものようにうそに決まっている。

(3) — 線③「大きなこうもりと、くほら」とありますが、男の子がキキたちをこうもりだと思う理由を、文章中のことばを用いて書いて答えなさい。(10点)

(4) ※ に入る最もふさわしいことばを次から選び、記号で答えなさい。(10点)

ア おはよう イ またあつたわね

ウ こんにちは エ こんばんは

(5) 文章の内容と合っているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(10点)

ア ジジはキキに枝をつかむように言った。

イ 男の子はキキたちを前から知っていた。

ウ キキはサーカスのブランコが得意だ。

エ 女の子はジジと同じくらいの年だ。

1 次の(1)～(7)の――線部のカタカナを、漢字に直して書きなさい。

(各5点×7)

(1) ボウエキでにぎわう町に住む。

(2) 町の中心にブロンズのゾウがある。

(3) 町のレキシについて調べる。

(4) 一週間テイドでできあがります。

(5) フクスウの時計がかざられる。

(6) 大きなケンセツが始まる。

(7) 高いギジュツが良い品をつくる。

2 次の(1)～(3)のことばの使い方としてふさわしい文を、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

(各5点×3)

(1) 「ひとえに」

ア 発表会が無事終わったのは、ひとえにみなさまのおかげです。

イ 人間はひとえに生きていくことはできません。

ウ ひとえに言えば、努力につきると思います。

(2) 「そびえる」

ア 雲のあいだにそびえる太陽がまぶしい。

イ あの人の声は、みんなの中でとてもそびえる。

ウ 空高くそびえるいくつものビルにおどろいた。

(3) 「いかに」

ア 本をいかに読んで、知識^{しき}をふやすことは大事だ。

イ バランスをたもつことがいかにむずかしいかわかるだろう。

ウ 物をいかに食べると、あぶないこともある。

5

説明文

氏 名

得 点

100

1 次の(1)～(7)の――線部のカタカナを、漢字に直して書きなさい。

(各5点×7)

(1) 字はセイカクに書くようにしよう。

(2) 作品のシツを高める。

(3) キロクをこう新する。

(4) 乗り物はベンリだ。

(5) 天体をカンソクする。

(6) ジモトの人たちと会って話す。

(7) オウダン歩道をわたりましょう。

2 次の(1)～(3)の――線部のことばの意味としてふさわしいものを、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

(各5点×3)

(1) たえず走りつづける。

ア いつも。

イ がんばって。

ウ ゆっくりと。

(2) げんみつに言う。

ア すばやい様子。

イ どうでもよい様子。

ウ きびしく細かい様子。

(3) めやすをつける。

ア だいたいの目あて。

イ きちんとした目標。

ウ あてずっぽう。

③ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

木には紅葉する木と、しない木があります。杉・ひのき・もみ・松のように葉がほそ長くつがった木（これを針葉樹といいます）は、たいていは、冬になっても葉がおちず、青々としています。（①、から松は葉が落ちます）

これに対して葉が平たく、はばの広い木（これを広葉樹といいます）には、紅葉する木が多いです。うるし・ぶな・かえで・なら・くぬぎなどは広葉樹です。そして冬には葉がおちます。

そこで、杉やひのきなど、大きな木材をつくるためにそだてられた山々は、一年じゅう、うつそうとした緑におおわれることになりました。一方、炭焼きにはさまざまな木がつかわれたので、炭焼きのための山々は、①秋になれば緑もあり、赤や黄やオレンジもある、色とりどりの風景を、つくり出すことになりました。

また、とくべつな柱をつくるためにそだてられた山々は、とくべつにかわったけしきをつくりひろげさせてくれました。②京都には②北山杉がありますね。

北山杉は、床柱をつくるための森林です。むかしから日本人は床の間を、美しい柱でかざりたいとねがいました。そこで、③北山の人たちがくふうして、そだててきたのが、あのふかくひだのきざまれた床柱だったのです。

北山の人たちは、たえずえだうちをかさねながら、とくべつの方法で木をそだて、みがき丸太をつくっています。

山の中には、お花見でにぎわう山もありますね。奈良県の吉野山はさくらの名所として知られています。吉野山がさくらの名所になったそのはじめは、苗木のおそなえによるものでした。むかしから吉野権現へおまいりをする人たちは、さくらをおそなえする習慣があったのです。それが、美しいさくらの山をそだてることになりました。

《富山和子「森は生きている」より》

(1) ①・② にあてはまる、最もふさわしい接続語をそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。（5点×2）

ア ところが イ たえば
ウ ただし エ なぜなら

①
②

(2) — 線①「秋になれば緑もあり、く色とりどりの風景」とありますが、そのように「色とりどりの風景」になる理由を文章中のことばを用いて書いて答えなさい。（10点）

(3) — 線②「北山杉」は、どんな目的で育てられますか。文章中から八字で書きぬいて答えなさい。（10点）

(4) — 線③「北山の人たちくそだててきた」とありますが、そのくふうを次のように説明するとき、

 に入ることばを文章中から四字で書きぬいて答えなさい（10点）
《たえず

 をするなど、とくべつの方法でみがき丸太を作っている。》

(5) 文章の内容と合っているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。（10点）

- ア から松以外の広葉樹はすべて葉が落ちる。
イ 吉野山は、山全体がさくらの木である。
ウ 吉野権現にまいる人たちはさくらの苗木をそなえた。
エ 北山も吉野山も針葉樹が多い。

--

① 次の(1)～(7)の——線部のカタカナを、漢字に直して書きなさい。

(各5点×7)

(1) ラクセキに注意する。

(2) 雷^{らい}メイがとどろく。

(3) 道にマヨ^うう。

(4) チキユウは青い星だ。

(5) くいをウ^ちこむ。

(6) テツ^てでできたくぎ。

(7) イメージをユタ^かにする。

② 次の(1)～(3)の——線部のことばの意味としてふさわしいものを、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

(各5点×3)

(1) つぶやきが聞こえる。

ア はっきり言うこと。

イ ぶつぶつと小声で言うこと。

ウ うたうようにささやくこと。

(2) 背丈^{せたい}がのびる。

ア 身長。

イ 背すじ。

ウ 背中の大きさ。

(3) ことづけをする。

ア 用事をほかの人にたのんで伝えてもらうこと。

イ 大事な用事をじかに自分で言うこと。

ウ 人から聞いたことをだれかに伝えること。

③ 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

山のむこうには

新川和江

- 山のむこうには
山があった
その山のむこうにも また
別の山があった
④ ③ ② ①
- 「人生も 山また山さ」
おじいちゃんが
煙草^{たばこ}をとり出しながら 言った
「人生か——」
⑤ ⑥ ⑦ ⑧
- ぼくはつぶやいて
雪山の上がった頂き^{いただ}を見る
⑩ ⑨
- ぐん と背丈^{せたけ}がのびて
大人になったような気がする
⑪ ⑫
- あの山を越えて行く日のことを思って
ぼくは 深呼吸^{こきゅう}をする
⑬ ⑭

- (1) ⑤行目「人生も 山また山さ」とありますが、「山」と「人生」はどのような点で似ていますか。それを次のように説明するとき、に入ることを詩の中から三字で書きぬいて答えなさい。(10点)

〈山は、一つの山をこえても、また があるように、人生も、一つの困難^{こんなん}を乗り越えても、新しい困難があるという点。〉

- (2) ⑫行目「大人になったような気がする」とありますが、その理由を次から二つ選び、記号で答えなさい。(10点×2)

- ア おじいちゃんと話し合ったから。
イ 人生について考えたから。
ウ 山の頂きの雪を見たから。
エ 背丈がのびたような気がしたから。
オ 深呼吸をしたから。

- (3) ⑬行目「あの山を越えて行く日」とはどのような日のことですか。最もふさわしいものから選び、記号で答えなさい。(10点)

- ア おじいちゃんとまた話す日。
イ 山のむこうにある村へ行く日。
ウ 雪山登山に成功する日。
エ「ぼく」が大人になる日。

--

- (4) ⑭行目「ぼくは 深呼吸をする」には、「ぼく」のどんな気持ち表れていますか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。(10点)

- ア つらいことをなるべくさげたい気持ち。
イ いままでもおじいちゃんといたい気持ち。
ウ 人生を切りひらこうとする強い気持ち。
エ 雪山の頂きをぶじにこえられるか不安な気持ち。

--

① 次の(1)～(7)の——線部のカタカナを、漢字に直して書きなさい。

(各5点×7)

(1) ケイケンを積む。

(2) 大きい荷物をユソウする。

(3) となりに住むロウ夫婦。

(4) 紙をやぶる。

(5) コガイに出て風に当たる。

(6) カザハナがちらつく。

(7) 傷のついた品をクベツする。

② 次の(1)～(3)のことばの使い方としてふさわしい文を、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

(各5点×3)

(1) 「のんびり」

ア たいてい休日はのんびり過すぎしている。

イ 大けがをしたので、のんびり病院につれていった。

ウ 作品ののんびりは、きれいに仕上げることが大事。

(2) 「うらやましい」

ア 読みたい本を貸かしてくれなかったあの人がうらやましい。

イ いつもきれいな服を着ているあの少女がうらやましい。

ウ 宿題をわすれて先生にしかられたかれがうらやましい。

(3) 「かさばる」

ア 荷物が大きくなってかさばる。

イ 寒さで顔がかさばる。

ウ おなかがへってかさばる。

③ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

母は、子どもに高望みをしない人だった。私が幼稚園に入るとき、「どんなお子さんに育ってほしいですか？」というアンケート用紙が配られたそうだが、①「一言「素直な子」とだけ書いたという。提出するとき、他のお母さんたちが、細かい字でびっしり書いているのを横目で見て、びっくりしたのだそうだ。

「どうなってほしいっていうのは、あんまりなかったんだけど、②こうなってほしくないっていうのは、結構あったわねえ」

たとえば？ と聞くと、「私が早口だったから、早口でしゃべるのは注意したわね。それから、本を読むスピードが早いのも、自分なりに反省していたから、それもゆっくり読むようにって、諭したわ」。

私が人一倍のんびりしているのは、③そんな母の方針のためかもしれない。「じゃあ、お母さんは、素直じゃなかったんだね？」と言ったら「えっ」と絶句していたけれど。

子どもは、一番身近にいる母親の真似をする。いいところも、悪いところも。だから悪いところを真似しないように気をつけるというのは、消極的なようだが、一つの教育といえるかもしれない。そして私が本好きになったのは、まちがいなく母を見て育ったからだ。とにかく活字中毒と言っているぐらい、常に何かを読んでいた。

大人が楽しそうにしていれば、子どもは興味を持つ。幼いころは、毎日のように「新聞」という読むべきものが届けられる大人を、心からうらやましく思った。実際、④雪や交通機関の影響で、新聞が遅れると、母の機嫌はすこぶる悪かった。

〈俵万智「101個目のレモン」より〉

(1) — 線①「一言『素直な子』とだけ書いたという」とありますが、ここから母のどんな人かがわかりますか。それを次のように説明するとき、に入ることを文章中から十一字で書きぬいて答えなさい。(10点)

〈母の、という人がら。〉

(2) — 線②「こうなってほしくない」とありますが、母はどのようなことを望んでいますか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。(10点)

- ア 自分ができなかったことをしてほしい。
イ 自分の欠点を見習わないでほしい。
ウ 自分の長所や欠点を教えてほしい。
エ 自分の長所を見習ってほしい。

(3) — 線③「そんな母の方針」とは、具体的にはどんな方針ですか。文章中のことはを用いて書いて答えなさい。(10点)

(4) — 線④「雪や交通機関の影響で、すこぶる悪かった」とありますが、このような母の状態を表すことばを、文章中から四字で書きぬいて答えなさい。(10点)

(5) 文章の内容と合っているものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(10点)

- ア 私ののんびりは母ゆずりだ。
イ 私は子ども時代から新聞を読んでいた。
ウ 私は素直な子どもだった。
エ 私の本好きは母のえいきょうだ。

1 次の(1)～(7)の——線部のカタカナを、漢字に直して書きなさい。

(各5点×7)

(1) キカイを動かす。

(2) 幸せな子ども時代をスゴす。

(3) ブツが不足する。

(4) 毛糸をアむ。

(5) ハゴイタで遊ぶ。

(6) 笑いをかみコロす。

(7) ベンゴシになりたい。

2 次の(1)～(3)の——線部のことばの意味としてふさわしいものを、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

(各5点×3)

(1) おぼろ氣にわかった。

ア はっきりしない様子。

イ いやいやながら、仕方ない様子。

ウ 直感として感じる様子。

(2) 案外と覚えている。

ア まったく予想に反して。

イ 予想していたとおり。

ウ 思いのほか。

(3) 氣ままにふるまう。

ア 勝手に。

イ きんちょうして。

ウ 気持ちよく。

③ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

当然ながら私にも、五歳のときがありました。数えてみると、もう半世紀以上たってしまいました。たが、この学齢直前の幼いころのことを、私は案外と覚えています。

幼稚園教育がまだそれほど一般的でなかった、昭和のごく初期のことですから、ほとんどの子は家にいました。① 私もそうです。実は町の小さな幼稚園に、はいったことは確かにはいっただけですが、② 三日通っただけでやめました。

大げさにいうと、幼稚園で男子の誇りにかかわるさわぎが起き、あつというまに、数人がいりみだれて取っ組み合う仕儀となりました。あげくは何んかが泣き、一人は鼻血がでました。ところが先生は、わけも聞かずに、私ともう一人の子——二人が勝ち組でした——をひどく叱ったのです。

「こんなところはぼくに向いてない」と、次の日から断固登園拒否しました。そのとき私は、なぜ自分がそう思うのかを、③ 母に向かって懸命に説明した覚えがあります。どうせ幼児のいうことです。筋道の通ったことなどいえるわけがありません。自分勝手な理屈をこねたにちがいないのですが、締めくくりの文句は覚えています。

「一年生になったら、ちゃんといくよ。幼稚園と学校はちがうもん」

そんな申立てを、元小学校教師だった母は認めて許してくれました。おかげで私は、毎日を氣ままに家のまわりで遊び暮らしていました。

ある日のこと、遊び仲間の数人と、いまでいう“家庭菜園”のトマト畑にはいりこみ、まだ青いトマトを、全部もぎとってしまいました。夕方になってそのことを知った菜園の持主が、大將格だった私の家へ苦情をいつてきたのです。母が応対にでて、ていねいに事情を聞き、④ よくよく謝ったようでした。

〈佐藤さとり「だれも知らない小さな話」より〉

(1) ——線①「私もそうです」の「そうです」とはどういうことを指していますか。書いて答えなさい。(10点)

(2) ——線②「三日通っただけでやめました」とありますが、その理由として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。(10点)

ア 男子の誇りにかかわるさわぎがあったから
イ 取っ組み合いになってしまったから

ウ 泣いたり鼻血を出したりした子がいたから
エ 先生からわけも聞かれずに叱られたから

(3) ——線③「母に向かって懸命に説明した」結果、母はどうしてくれましたか。書いて答えなさい。(10点)

(4) ——線④「よくよく謝ったようでした」とありますが、その理由とはいえないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(10点)

ア 家のまわりで毎日氣ままに遊んでいること
イ 青いトマトを全部もぎとってしまったこと
ウ 家庭菜園に勝手にはいりこんだこと
エ いたずらをした大將格だったこと

(5) 「私」は小学校入学前の時期をどのように思い出していますか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。(10点)

ア そのころから母親にたよってばかりいた。
イ 長い年月がたっても案外わすれないものだ。
ウ 今思い出すとはずかしいことばかりだ。
エ 一つ一つのがなつかしい。